

ルートは推測

残雪期の道迷い。浦倉山からの下山で、雪が固く足跡が分らない。午後3時すぎ、西に見えていた須坂の街並みを目指して沢沿いを進んだ。滝を迂回する際に転倒。背骨を強く打ち（骨折）、体が動けずビバークを決める。翌朝、赤テープを見つけ、少し動けるようになったので赤テープ沿いに沢を下る。釣り人を見つけ「遭難しました」と救助を求めた。

滝



同ルート下降する予定であったが、残雪期のため雪が固く、足跡が分からない。方向は、須坂の町並みを目指すが、地図もコンパスも使ったことがない。里山で日帰りのため迷うことはないと思っていた。沢は危険と知っていたが、雪を避けるため沢を歩いた。(HP参照)

怪我をしなければ、沢沿いに下っても林道が走っているので、脱出はできたと思うが、脱出の自信があって沢を下った訳ではない。山の地形から自然と沢を下ることになったのだ。

道に迷っている場合で沢を下ってしまった場合元来た道に戻る事は難しい。なぜならば、下りでの距離は少しでも登る場合は長い距離を戻らなくてはならないと思うからだ。

地図とコンパスを使うことができない技術で、残雪期を歩くことは、遭難の危険が増大する。道沿いに歩くのとは違う。自分で道を決めて、道がないところでも地形を読んで進まないといけない。この道迷い事例は、残雪期の里山登山に対して、よい事例となった。ぜひ、謙虚な気持ちを持ち、今後の参考にしてほしい。